



令和7年度

学校評価まとめ

～教職員・生徒・保護者の声から見る今年度の学び、来年度に向けて～



横浜市立二つ橋高等特別支援学校

学校 教育 目標	○「働く」…主体的に社会貢献できる職業人をめざします。 働くことを目指した学びを通して、働く意味や喜びを知り、主体的に社会とつながり、もてる力を発揮し貢献する力を育てます。 ○「自立」…社会や他者とつながりがもてる自立した社会人をめざします。 社会とつながり、多様な人々との交わりを通して、自己の理解を深め、他者と協働しながら自分らしく社会生活を送ることができる力を育てます。 ○「自己実現」…自分の幸せを思い描き、実現していく人をめざします。 社会や他者を尊重し、自己の夢や希望に向かって、自分らしく幸せに生活するために自分の人生を自分で選び、決定し、実現していく力を育てます。				
	創立 19 周年 学校長 古川 晶大 副校長 菅井 昭宏 2 学期制				
学校 概要	幼児・児童・生徒数: 137 人 幼稚部: 0 人 小学部: 0 人 中学部: 0 人 高等部本科: 137 人 専攻科: 0 人				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力を踏まえた 「3年間で育てる子ども像」と具体的取組
○主体性、コミュニケーション能力、問題解決能力 ○協働性、自己有用感、自己理解・相談力 ○自己選択、自己決定力、キャリアプランニング能力	○主体的に働く態度や姿勢をもち、積極的に社会貢献しようとする人 ○自己理解、他者理解を深め、他者とつながり、協働しながら自立しようとする人 ○自分の思いや願いをもち、それを実現していくようとする人 ----- ・教員が伴走者として、生徒のキャリア発達を促すための「問い」や「仕掛け」を考え、生徒主体の授業づくりに問題解決的に取り組んでいく。 ・各職業コースにおいて、共通の評価基準等を使用して、生徒が仲間や教員と対話を通して、目標設定やふり返りを行うことで、自己理解を深められるよう、全教職員が共通認識のもと取り組んでいく。 ・「生徒自治の学校」を実現するため、生徒の思いや願いを教育課程の運営改善、学校行事の検討などに活かしていく。

中期 取組 目標	○卒業後の自立と社会参加を見据え、3年間を通じて他者との対話を積み重ね、自己理解や他者理解を深めるとともに、「主体性」や「協働性」、「相談力」等を育む教育を推進していきます。 ・生徒が自身の学びや学校生活において、「なぜ、なんのために」を考えられる力を育てます。 ・仲間との協働的な学びを通して、自己理解や他者理解を深めることで、困ったときに相談できる「相談力」を育てます。 ・地域や関係機関Win-Winの関係を構築することで、生徒の学校外での学びを充実させ、一人ひとりの自己有用感を育みます。 ・生徒の思いや願いに寄り添い、一人ひとりの意思決定を支援することで、本人の「自己選択」、「自己決定」の力を育てます。
-------------------------	---

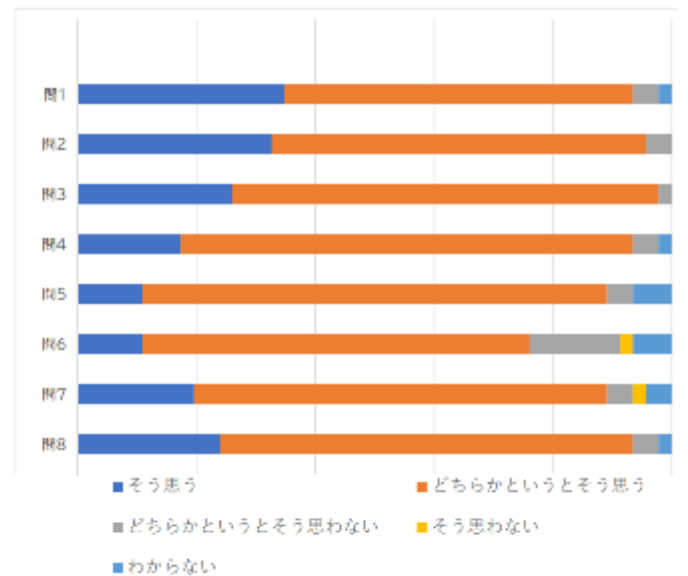
重点取組分野	具体的取組
知 生徒主体の学び 担当 教育課程委員会	①職業科をはじめすべての教科等の授業で、キャリア教育の視点を大切に「なぜ」「何のために」学ぶのか、自分の言葉で語ることができるように、生徒主体の学びを展開する。生徒の思いに寄り添い、一人ひとりの自己実現をめざすための学びを提供する。②対話を通した学び合いにより、生徒の発信力や傾聴力を高め、さらに自身の考えを深めていく学びを推進する。③自己実現を図るために、「支える支援」へ転換し、生徒が「自己選択・自己決定」することのできる学習場面を多く設定する。
徳 人権教育 担当 人権教育委員会	①人とのつながりや、対話の中で、自己有用感や自尊感情を高め、他者との違いを認め、共に支え合える関係を育む。②全ての教育活動を通して、自己選択、自己決定を繰り返す行い、自分らしく豊かに生きる力を育てる。③教職員が研修や人権チェックシート等で自身の取組や生徒との関わり方を振り返り、日々の教育活動や生徒に対する自身の関わりは、人権教育が基盤であることを確認し、人権意識の高揚に努める。
体 健やかな体 担当 保健体育研	①体育科の授業を中心に、主体的・協働的な学習を通して、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを過ごすとともに、継続して運動に親しむ意欲や体力の向上を目指す。②保健分野の学習等を通して、自立や就労生活における健康・安全や自分の体についての理解を深め、生活に生かす力を育てる。
公 開 キャリア教育 担当 キャリア支援部	①自己実現を図り、主体的に成長できるよう、「キャリアパスポート」等のツールを用いた取組や「キャリアデザイン相談会」などの学びを通して、生徒のキャリア発達を促し、主体性や協働性、相談力の向上を図る。②Keepsafeの取組を通して、自身の考える幸せな人生を送っていくことを目指し、全学年1回の授業を行う。自分のありたい姿を考え、自分の新しい認知を獲得していくことができるよう対話を中心に取り組む。自分の幸せのために、自分でグッドウエイを選ぶことができるよう、生徒の意思決定を支援していく。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①全教職員で全生徒と関わり、支援する意識をもち、一人ひとりの生徒理解に基づき、変化等に気付く「アンテナ」を高く持ち、課題を早期発見・早期解決できるように努める。②いじめの未然防止に向け、予防的な取組を重視した情報共有と指導・支援体制の構築を行う。外部講師を招き、いじめ防止教室を実施する。③月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、管理職、学年主任、担任、支援担当、CO、養護教諭などが情報共有をし、組織的としていじめ対応に取り組む。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 研究研修部(育成係)	①生徒の支援に関することや授業づくり等について、教職員同士が対話を重ね、互いに学び合い、支え合う関係性を築き、相談しやすい職場環境を作っていく。②メンターチーム研修や研究授業、授業後の協議会の場において、最新の専門知識や指導技術を共有し、互いに身に付け、授業力向上を目指していくようにする。③外部講師による研修や他校の公開研究会など、校内外での研修に積極的に参加し、授業改善を進める。
横浜型センター的機能の取組 担当 特別支援教育コーディネーター	①高等部のみの特別支援学校の特色を生かしたセンター的機能校として、地域の小・中学校のニーズ、将来の生活に向けた取組を捉えて、学校支援やコンサルテーションを行う。②区専任会や各種協議会等に積極的に参加して日頃から関係性を築いたり、発信を行ったりし、特別支援教育推進を意識した連携やコンサルテーションを進める。
個に応じた指導 担当 総務部(教務係)	①個別的教育支援計画・個別の指導計画を作成にあたっては、一人ひとりの教育的ニーズに応じた目標、指導内容、指導方法等を設定する。本人、保護者と対話を通じて合意形成をはかり、一貫した支援を行う。②生徒一人ひとりの実態や状況、ニーズに応じて、個別支援(指導)、登校支援等を行い、3年間学び続けられるよう「支える支援」を進める。
地域学校協働活動 担当 職業代表者会	①学校運営協議会の充実を図り、地域と結びつきの強い委員への委嘱を行い、更なる地域協働活動の充実を図る。主幹教諭はじめミドルリーダーも出席し、取組を発信する機会をさらに設ける。②せやまる(シャローム三育保育園、にこてらす)、こまち、二つ橋小学校、区役所等々、職業コースやチャレンジワークでの活動や実習とのつながりを広げ、強めるようにする。新たな連携先や企業等の開拓を行い、持続可能な連携を進めるようにする。
a15 担当	a25

【学校教育目標】

教職員

学校教育目標	問1	働くことをめざした学び(職業の授業や現場実習)によって、生徒は働く意味や喜びを知ることができている。
	問2	職業の授業や現場実習、学校生活を通じて、生徒は主体的に社会とつながろうとする心が育まれている。
	問3	生徒は授業や学校生活、現場実習を通じて、自分のよさに気づき、もてる力を発揮できている。
	問4	生徒は多様な人々との交わりや多くの経験を通して、自己理解を深めることができている。
	問5	生徒は他者と協働しながら、自分らしく社会生活を送る力が育まれている。
	問6	生徒は社会や他者を尊重している。
	問7	生徒は自己の夢や希望に向かって自分らしく幸せに生活していこうとしている。
	問8	生徒は自分の人生を自分で選び、決定する機会を多く経験し、実現していく力が育っている。

	そう思う	どちらかというところ思う	どちらかというところ思わない	そう思わない	わからない					
問1	16	35%	27	59%	2	4%	0	0%	1	2%
問2	15	33%	29	63%	2	4%	0	0%	0	0%
問3	12	26%	33	72%	1	2%	0	0%	0	0%
問4	8	17%	35	76%	2	4%	0	0%	1	2%
問5	5	11%	30	78%	7	4%	1	0%	3	7%
問6	5	11%	30	65%	7	15%	1	2%	3	7%
問7	9	20%	32	70%	3	4%	0	2%	1	4%
問8	10	24%	32	70%	2	4%	0	0%	1	2%



○担当教職員による考察

学校はキャリア教育の視点を重視し、地域清掃や出張販売、自治会の事務仕事など、地域での実践活動を取り入れている。これにより働く喜びや地域とのつながりを体験し、自己理解を深める機会が増えてきた。生徒が自分の良さに気づくには、他者から感謝される経験が不可欠であり、地域で役割を果たして「ありがとう」を得ることが自己有用感や自己肯定感の向上につながる。特に「他者を尊重していない」との回答が 7 名いたことから、自分を認める力を育てる学習環境づくりが重要である。教職員には、生徒が自信をもち、他者を尊重しながら社会生活を送る力を育てるような環境設定が求められている。

○校長より(来年度に向けて)

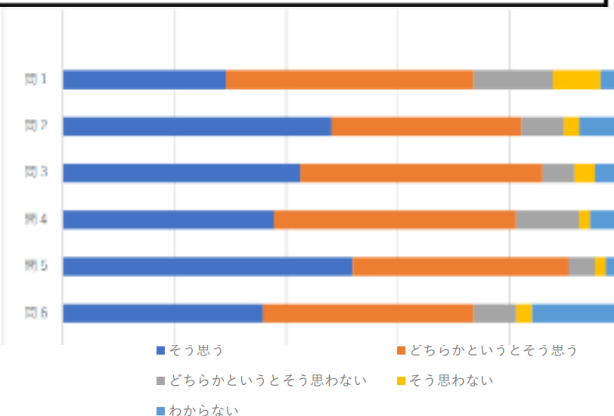
本校は、地域清掃や販売、自治会事務などの実践を通じ、生徒が役割を果たし感謝される経験を重ねてきました。こうした地域貢献の経験(学習)は生徒の自己有用感を高め、自尊感情を育みます。来年度は、これらの取組において、生徒が目標設定→実践→振り返りを一体的に設計し、取組の成果の言語化と可視化を徹底します。学校設定教科「クローバータイム」を核に学級経営と職業学習を連動させ、挑戦と安心・安全が両立する環境づくりを行います。地域の皆様とは活動の目的や育てたい生徒の力を共有し、地域協働の輪をさらに広げます。

【生徒主体の学び】

生徒

生徒主体の学び	問1	勉強や活動で、「なぜするのか」「なんのためにするのか」を考えて、自分の考えを話すことができましたか？
	問2	先生は、あなたの話をよく聞いて、目標を達成できるように助けてくれましたか？
	問3	話し合いの学習で、「自分の考えを話す力」や「人の話を聞く力」がのびたと思いますか？
	問4	キャリアデザイン相談会などで、自分の考えを深めることができましたか？
	問5	学校生活の中で、「自分で選ぶ」「自分で決める」ことをたくさん経験できましたか？
	問6	先生は、あなたの夢や目標をかなえるために助けてくれましたか？

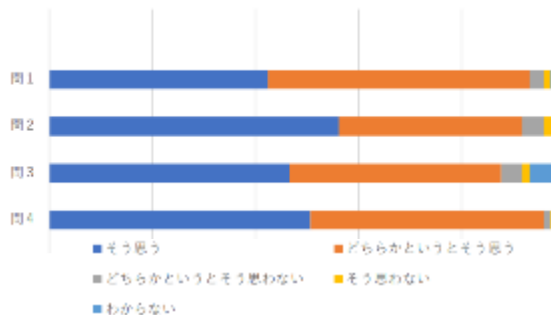
	そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない	わからない					
問1	31	29%	47	44%	15	14%	9	8%	4	4%
問2	51	48%	36	34%	8	8%	3	3%	8	8%
問3	45	42%	46	43%	6	6%	4	4%	5	5%
問4	40	38%	46	43%	12	11%	2	2%	6	6%
問5	55	52%	41	39%	5	5%	2	2%	3	3%
問6	38	36%	40	38%	8	8%	3	3%	17	16%



保護者

生徒主体の学び	問1	学校はキャリア教育の視点を大切に、「なぜ・何のために学ぶのか」を子どもが自分の言葉で話せるようにしていると感じますか。
	問2	学校は子どもの思いに寄り添い、一人ひとりの自己実現に向けた学びを提供していると感じますか。
	問3	対話による学び合いを通して、子どもは「自分の考えを伝える力」や「人の話を聞く力」を伸ばしていると思いますか。
	問4	学校は「支える支援」に取り組み、子どもが「自己選択・自己決定」できる学習場面(選べる活動や役割など)を多くつくっていると感じますか。

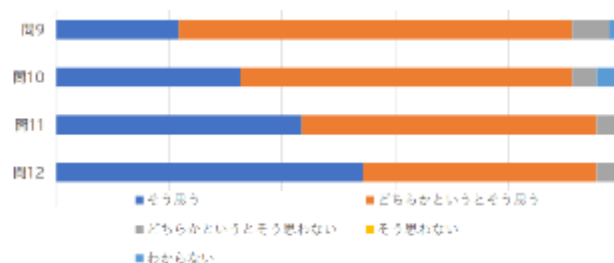
	そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない	わからない					
問1	31	42%	37	51%	2	3%	1	1%	2	3%
問2	41	56%	26	36%	3	4%	2	3%	1	1%
問3	34	47%	30	41%	3	4%	1	1%	5	7%
問4	37	51%	33	45%	1	1%	2	3%	0	0%



教職員

生徒主体の学び	問9	本校はすべての教育活動を通じて、キャリア教育の視点を大切に「なぜ」「何のために」学ぶ(取り組む)のか、生徒が自分の言葉で話ることができるよう生徒主体の学びを展開している。
	問10	本校は生徒の思いに寄り添い、一人ひとりの自己実現をめざすための学びを提供している。
	問11	教職員は対話を通じた学び合いにより、生徒の発信力や傾聴力を高め、さらに自身の考えを深めていく学びを推進している。
	問12	本校は生徒が自己実現を図るために、「支える支援」へ転換し、生徒が「自己選択・自己決定」することのできる学習場面を多く設定している。

	そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない	わからない					
問9	10	22%	32	70%	3	7%	0	0%	1	2%
問10	15	33%	27	59%	2	4%	0	0%	2	4%
問11	20	43%	24	52%	2	4%	0	0%	0	0%
問12	25	54%	19	41%	2	4%	0	0%	0	0%



○担当教職員による考察

生徒回答では「なぜ学ぶのかを話せた」「キャリア相談で考えを深めた」への否定的回答が一定数あり、学びの動機づけや主体性を促す指導が課題である。授業導入が教員主導に偏っていないかを見直し、生徒が自分ごととして学べるよう、「なぜ・何のために」を教職員自身が語り、生徒に気づきを促す支援が必要。

またキャリア相談会の意義が十分浸透しておらず、参加してよかったという成功体験を積ませることが求められる。保護者回答では、学校が寄り添い支援する姿勢への否定的回答は少ないが、対話的な学びの実態が伝わっていない可能性があり、発信の強化が必要。教員回答でもわずかに主体的学びへの課題認識があり、生徒が将来像を描ける教育活動と支援の充実、教職員間の理解深化が重要となる。

○校長より(来年度に向けて)

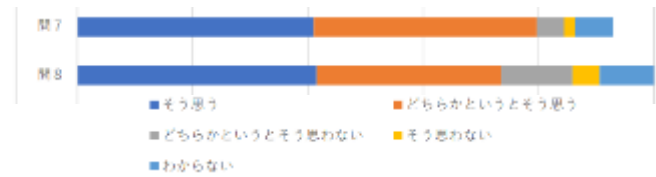
「なぜ、なんのために学ぶのか」を自分の言葉で語れるよう、授業導入の工夫と良質な「問い」により、生徒が自らの学びに自分事として取り組めるようにしていきます。キャリア相談会は目標設定と振り返りを効果的に行うことで、相談することのよさを実体験できるように工夫していきます。教科等横断的な視点でそれぞれの授業や校外学習などの学校行事の学びを連動させ、主体性・協働性・相談力の向上を図ります。学校設定教科「クローバータイム」において、それぞれの学びのプロセスはポートフォリオで可視化し、生徒本人が自身の成長を具体的に感じられるよう工夫していきます。生徒一人ひとりの成長の様子を保護者や地域の方々と発信・共有できるよう努めていきます。

【人権教育】

生徒

人権	問7	あなたは、自分や友だちを大切にすることができましたか？
	問8	あなたは、自分らしく安心して学校生活をおくることができましたか？

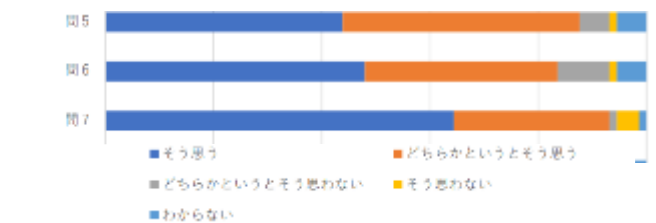
	そう思う		どちらかというそう思う		どちらかというそう思わない		そう思わない		わからない	
問7	51	41%	41	39%	5	5%	2	2%	7	7%
問8	44	42%	34	32%	13	12%	5	5%	10	9%



保護者

人権教育	問5	学校は、人とのつながりを大切にした対話により、自己有用感や自尊感情(自分を大切に思う気持ち)を育てていると感じますか。
	問6	授業や学校生活の中で、子どもは「違いを認め合い、支え合う」活動に取り組んでいると思いますか。
	問7	先生方は「生徒との関わりは人権教育が基盤」という意識をもって、日頃から丁寧に関わっていると感じますか。

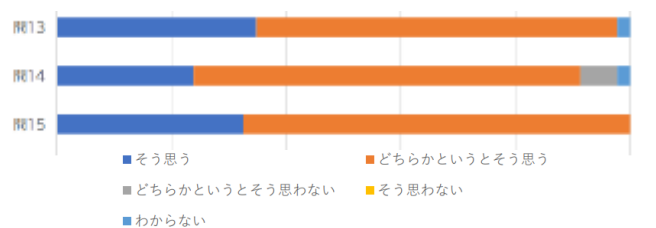
	そう思う		どちらかというそう思う		どちらかというそう思わない		そう思わない		わからない	
問5	32	44%	32	44%	4	5%	1	1%	4	5%
問6	35	48%	26	36%	7	10%	1	1%	4	5%
問7	47	64%	21	29%	1	1%	3	4%	1	1%



教職員

人権	問13	本校は、人とのつながりを大切に、対話を深めることで自己有用感や自尊感情を高め、自分らしく豊かに生きる取組を進めている。
	問14	本校は、授業や学校生活の中で、自他の違いを認め、共に支え合う活動を大切にしている。
	問15	本校の教職員は「生徒との関わりは人権教育が基盤」であることを確認し、人権意識の高揚に努めていると感じる。

	そう思う		どちらかというそう思う		どちらかというそう思わない		そう思わない		わからない	
問13	16	35%	29	63%	0	0%	0	0%	1	2%
問14	11	24%	31	67%	3	7%	0	0%	1	2%
問15	15	33%	31	67%	0	0%	0	0%	0	0%



○担当教職員による考察

- 教職員・保護者ともに、人権や自己有用感の育成を肯定的に評価する声が多い一方、生徒の一部には肯定感の低さが見られる。
- 生徒では「違いを認め支え合う」「自分や友だちを大切にできている」などに不安を感じる割合が一定数あり、丁寧な対話や聞き取りを今後も継続していく必要がある。
- 人権教育の基盤づくりは教職員では浸透しているが、保護者への伝わり方に課題があり、取組の共有や可視化が今後のポイントとなる。

○校長より(来年度に向けて)

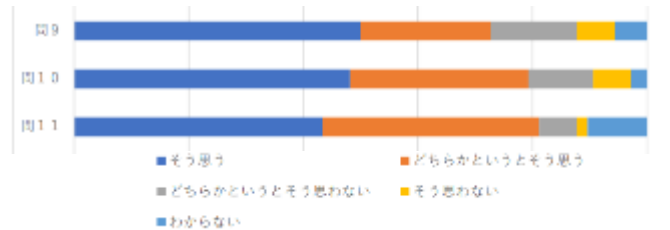
教職員が人権意識を高め、生徒との丁寧な対話・傾聴・承認を基盤に、一人ひとりの自己肯定感の土台を全校で支えます。他者との違いを認め、多様性を包摂する学級づくりを推進し、安心して様々なことにチャレンジできる風土を育てます。誰一人取り残さないという視点で学校や学級のルールを生徒が自ら考え、安心して学校生活を送れるようにしていきます。それらの取組は可視化して保護者へ分かりやすく発信します。生徒や保護者の皆様の不安の声には迅速に寄り添い、丁寧な支援につなげていきます。

【健やかな体】

生徒

健やかな体	問9	体育の授業で、運動の楽しさを知り、体力がついたと思いますか？
	問10	健康であるために、運動を続ける気持ちや体力がついたと思いますか？
	問11	保健の勉強で、健康や安全について学び、生活にいかせると思いますか？

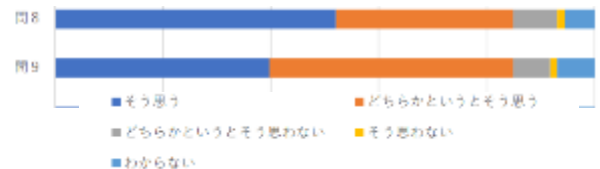
	そう思う	どちらかというとうる	どちらかというとうる	そう思わない	わからない					
問9	53	50%	24	23%	16	15%	7	7%	6	6%
問10	51	48%	33	31%	12	11%	7	7%	3	3%
問11	46	43%	40	38%	7	7%	2	2%	11	10%



保護者

健やかな体	問8	体育の授業などを通して、子どもは「運動を続ける意欲」や「体力の向上」を感じられていると思いますか。
	問9	保健分野の学習などを通して、子どもは「健康・安全」や「自分の体」について理解を深め、生活に生かしていると思いますか。

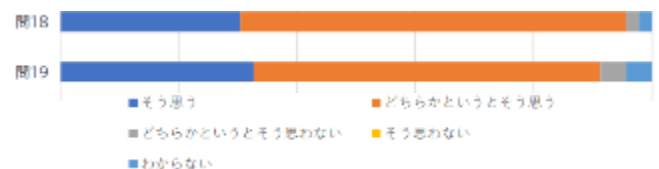
	そう思う	どちらかというとうる	どちらかというとうる	そう思わない	わからない					
問8	38	52%	24	33%	6	8%	1	1%	4	5%
問9	29	40%	33	45%	5	7%	1	1%	5	7%



教職員

健やかな体	問16	本校は体育科の授業を中心に、生徒が生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを過ごすとともに、継続して運動に親しむ意欲や体力の向上をはかっている。
	問17	本校は保健分野の学習等を通して、自立や就労生活における健康・安全や自分の体についての理解を深め、生活に生かす力を育てている。

	そう思う	どちらかというとうる	どちらかというとうる	そう思わない	わからない					
問18	14	30%	30	65%	1	2%	0	0%	1	2%
問19	15	33%	27	59%	2	4%	0	0%	2	4%



○担当教職員による考察

生徒は運動の楽しさや体力の向上、健康完全への理解は概ね深まっている。一方で運動の継続や学習内容を生活に生かすことまでには至っていない。実生活に結び付けた指導の充実が課題である。

保護者の方には、学習に関して、運動への意欲や体力の向上、健康、安全に関する理解が概ね育まれていると受け止められている。一方で学習内容が日常生活に十分に結びついていないと感じられる保護者がみられる。継続的な実践に繋がる指導の充実が課題である。

教職員は指導支援が概ね適切に行われ、健康や安全に関する意識の向上に成果がみられる。一方で学習内容を日常生活に生かす指導や個に応じた支援の充実が課題である。

○校長より(来年度に向けて)

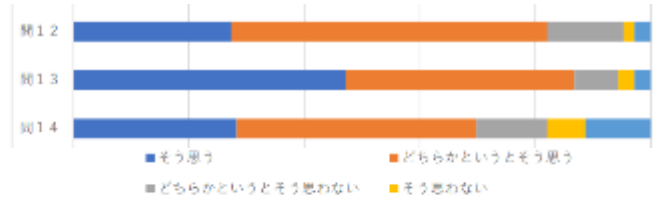
我々が目指すべきことは単なる「体力向上」だけではなく、保健体育の授業等で学んだことを日常の生活で活用できる力の育成です。それらの力が卒業後、適度な運動を継続しようとする意識の向上や健康の保持増進、スポーツ観戦するなど運動に興味関心をもつことにつながります。学校と家庭、そして地域とつながり、スポーツに関心をもち、健康を維持する行動の習慣化を支援します。生徒が保健体育の授業を通して達成感を味わえるよう授業内容をさらに工夫し、一人ひとりの自己効力感を高めます。必要に応じて個々の実態に応じた環境調整を行うことで、運動を無理なく続けられるよう支援していきます。安全教育は具体場面を想定し、実行可能性を高められる学びを提供していきます。

【キャリア教育】

生徒

キャリア教育	問12	キャリアパスポートやキャリアデザイン相談会で、将来の仕事や生活について考えることができましたか？
	問13	勉強や活動で、「自分から動く力」「友だちと協力する力」「困ったときに相談する力」がついたと思いますか？
	問14	Keepsafe®の学びで、「将来どんなふうになりたいか」を考えることができましたか？
	問15	自分の幸せのために、「よい方法(グッドウェイ)」をえらぶ力がついたと思いますか？

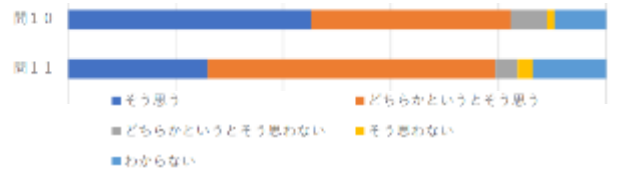
	そう思う	どちらかというとうる	どちらかというとうる	そう思わない	わからない					
問12	29	27%	58	55%	14	13%	2	2%	3	3%
問13	50	47%	42	40%	8	8%	3	3%	3	3%
問14	30	28%	44	42%	13	12%	7	7%	12	11%



保護者

キャリア教育	問10	キャリアパスポートやキャリアデザイン相談会などの取組を通して、子どもの「主体性・協力する力・相談する力」は伸びていると思いますか？
	問11	Keepsafe®の学びを通して、子どもは「ありたい姿」を考え、自分の幸せのために「よい行動(グッドウェイ)」を自分で選べるようになってきていると思いますか？

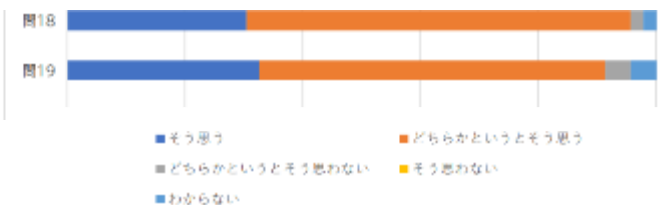
	そう思う	どちらかというとうる	どちらかというとうる	そう思わない	わからない					
問10	33	45%	27	37%	5	7%	1	1%	7	10%
問11	19	26%	39	53%	3	4%	2	3%	10	14%



教職員

キャリア教育	問18	本校は「キャリアパスポート」等のツールを用いた取組や「キャリアデザイン相談会」などの学びを通して、生徒のキャリア発達を促し、生徒の主体性や協働性、相談力が向上させている。
	問19	本校はKeepsafe®の取組を通して自分のありたい姿を考え、自分の幸せのために自分でグッドウェイを選ぶことができるよう、生徒の意思決定を支援している。

	そう思う	どちらかというとうる	どちらかというとうる	そう思わない	わからない					
問18	14	30%	30	65%	1	2%	0	0%	1	2%
問19	15	33%	27	59%	2	4%	0	0%	2	4%



○担当教職員による考察

キャリアパスポートやキャリアデザイン相談会の取組を通して、教員としては、生徒の主体性や協働性、相談力の向上を感じていることが成果として挙げられる。また、生徒たちも、ある程度、上記取組を通して将来のことを考えたり、成長を感じたりすることができていることがわかった。

課題としては、このような取組やその成果を保護者の方と共有できていないことが挙げられる。また、生徒自身は「主体性・協力する力・相談する力」の向上を一定数感じているものの、それを家庭では発揮できていない、あるいは、そもそも発揮できる場面がなく、保護者の方がその成長を感じにくい可能性も考えられる。

○校長より(来年度に向けて)

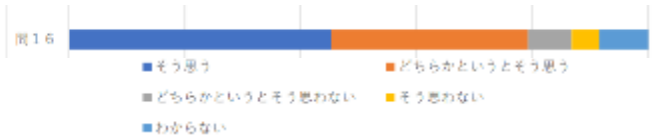
主体性・協働性・相談力の伸長は今年度の確かな成果です。来年度は学校設定教科「クローバータイム」を核に、見直し(目標設定)→実践→ふり返りの連続性を高めます。キャリアデザイン等による生徒の成長の可視化と共有を進め、家庭でもそれらの成長を発揮できる機会を増やします。校内外の学びを接続し、生徒の自己理解を促し、新たな目標設定、挑戦へとつなげ、「できたこと」を実感できるよう支援し、一人ひとりの自己肯定感のさらなる向上を目指していきます。

【いじめ】

生徒

いじめ	問16	先生は、あなたを大切に、変化に気づいて助けてくれましたか？
-----	-----	-------------------------------

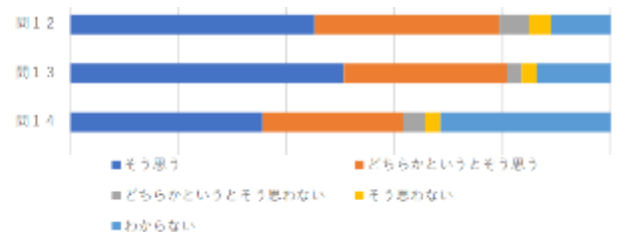
	そう思う	どちらかというとうる	どちらかというとうる	そう思わない	わからない					
問16	48	45%	36	34%	8	8%	5	5%	9	8%



保護者

いじめ	問12	学校は全教職員で生徒に関わり、変化に気づくよう努めるなど、早期発見・早期対応に取り組んでいると感じますか。
	問13	学校はいじめの未然防止に向けて、情報共有や指導・支援体制を整えていると感じますか。
	問14	学校はいじめ防止対策委員会を定期的に開き、組織的にいじめ対応を進めていると感じますか。

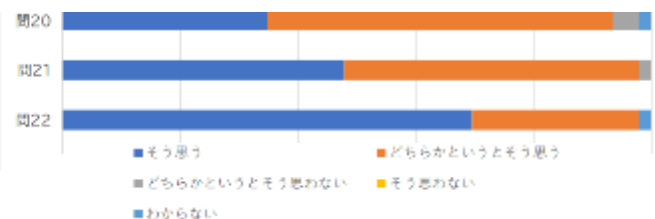
	そう思う	どちらかというとうる	どちらかというとうる	そう思わない	わからない					
問12	33	45%	25	34%	4	5%	3	4%	8	11%
問13	37	51%	22	30%	2	3%	2	3%	10	14%
問14	26	36%	19	26%	3	4%	2	3%	23	32%



教職員

いじめ	問20	本校は全教職員で全生徒と関わり、支援する意識をもち、一人ひとりの生徒理解に基づき、変化等に気付く「アンテナ」を高く持ち、課題を早期発見・早期解決できるように努めている。
	問21	本校はいじめの未然防止に向け、予防的な取組を重視した情報共有と指導・支援体制を構築している。
	問22	本校は月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、管理職、学年主任、担任、支援担当、CO、養護教諭などが情報共有をし、組織としていじめ対応に取り組んでいる。

	そう思う	どちらかというとうる	どちらかというとうる	そう思わない	わからない					
問20	16	35%	27	59%	2	4%	0	0%	1	2%
問21	22	48%	23	50%	1	2%	0	0%	0	0%
問22	32	70%	13	28%	0	0%	0	0%	1	2%



○担当教職員による考察

いじめの定義の周知や月1回のいじめ防止委員会、弁護士の先生による授業等を行ってきた。職員に関してはそう思う、どちらかというとうるの割合が9割以上ある一方で、保護者、生徒に関してはやや下がる傾向にある。

保護者の問14に見られるように分からないという回答も多い。いじめの定義の周知や学校いじめ防止基本方針の周知を今後も少なくとも年度の初めにすぐ一やホームページでの発信を行い、周知を徹底していく。自分の子供がいじめを受けたが、対応が分からないという人がいるかもしれない。そういうところに注意深く目を向けていく必要がある。保護者への連絡等を確実にし、連携して対応していけるようにしていきたい。

また、生徒の自由記述からも、何人か自分の話をもっと聞いてほしい、見てほしいという思いが読み取れる。また大切にされていないと感じられる生徒が5パーセントいる。どんな生徒でも一人一人を大切にしていくという意識を職員で引き続けることに加え、年度初めに職員でいじめ防止基本方針の確認でいじめへの基本対応、4つの問いや冰山モデルを用いていくこと等を年度初めに職員間で確認し、徹底していくことが大切になるとと思われる。

○校長より(来年度に向けて)

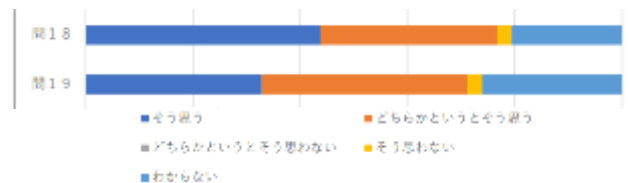
いじめを許さない文化を、仕組みと発信の両面で強化します。定義・対応方針・相談窓口を生徒・保護者へ繰り返し周知し、感度を上げて初期兆候を見逃さず迅速に対応していきます。観察・記録・共有の精度を高め、月例いじめ防止対策委員会の実効性を上げます。来年度も「4つの問い」や「冰山モデル」を用いた傾聴の姿勢と安心安全な対話の場を全職員で保障していきます。生徒が教職員に安心して相談できる体制構築、環境設定により未然防止から継続支援までを徹底します。

【センター的機能】

保護者

機能センター的	問18	学校は高等部のみの特別支援学校の特色を生かし、地域の小・中学校へ支援や相談(コンサルテーション)を行っていると感じますか。
	問19	区の会議や協議会などに参加し、日頃から関係づくりと情報発信を行い、特別支援教育の連携を進めていると感じますか。

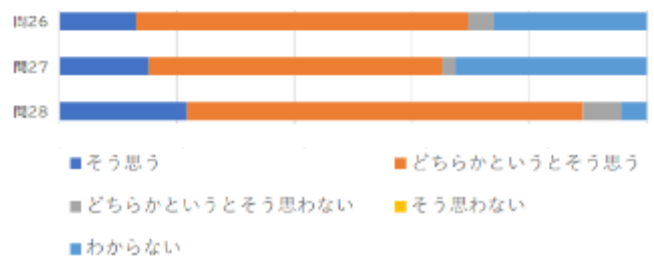
	そう思う	どちらかという思う	どちらかという思わない	そう思わない	わからない					
問18	32	44%	24	33%	0	0%	2	3%	15	21%
問19	24	33%	28	38%	0	0%	2	3%	19	26%



教職員

機能センター的	問26	本校は高等部のみの特別支援学校の特色を生かしたセンター的機能校として、地域の小・中学校のニーズ、将来の生活に向けた取組を捉えて、学校支援やコンサルテーションを行っている。
	問27	本校は区専任会や各種協議会等に積極的に参加することで日頃から関係性を築き、発信することで特別支援教育推進を意識した連携やコンサルテーションを進めている。

	そう思う	どちらかという思う	どちらかという思わない	そう思わない	わからない					
問26	6	13%	26	57%	2	4%	0	0%	12	26%
問27	7	15%	23	50%	1	2%	0	0%	15	33%



○担当教職員による考察

職員、保護者ともに分からないという数字が高い。学校支援やコンサルテーションに関しては、年度末の職員会議に加え、小中学校に行った際は報告書を作成し、Teams で共有できるようにしていきたい。また専任会で共有した内容等は職員会議やミラ임で確認できるようにしていくことが必要。

保護者へは、ホームページで引き続き取り組んでいることを発信していく。設問自体の変更も考えていく。

○校長より(来年度に向けて)

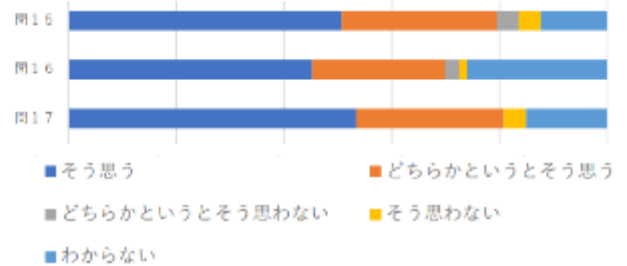
「分からない」という声を課題と捉え、センター的機能の可視化を進めていきます。他校支援の報告を標準化し、校内外で即時共有、成果と改善点を明確化します。支援の事例と効果はTeams や学校ホームページを活用し、定期的に発信し、理解促進に努めます。職員会議等での情報共有の方法を改善し、支援の内容が一人ひとりの教職員に届くようにしていきます。保護者の方が回答しやすいように、学校評価アンケートの設問内容の見直しも検討します。

【人材育成】

保護者

組 人 織 運 営 成 成	問15	先生方は授業づくりや支援について話し合い、互いに学び合い・支え合う関係ができていますと感じますか。
	問16	メンターチーム研修や研究授業などを通して、先生方は最新の知識や技術を共有し、授業力の向上に努めていると感じますか。
	問17	外部講師による研修や他校の公開研究会など、校内外の研修に積極的に参加し、授業改善を進めていると感じますか。

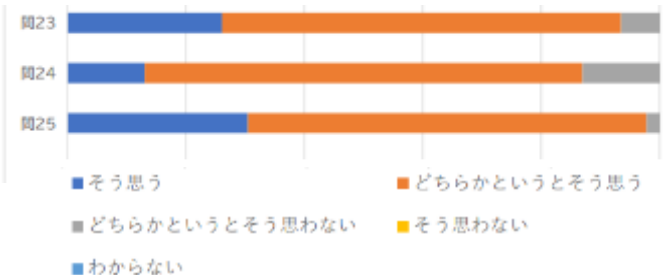
	そう思う	どちらかという 思う	どちらか というと思 わない	そう思わ ない	わからない					
問15	37	51%	21	29%	3	4%	3	4%	9	12%
問16	33	45%	18	25%	2	3%	1	1%	19	26%
問17	39	53%	20	27%	0	0%	3	4%	11	15%



教職員

人 材 育 成	問23	本校は生徒の支援に関することや授業づくり等について教職員同士が対話を重ね、互いに学び合い、支え合う関係性が築かれ、相談しやすい職場環境となっている。
	問24	本校はメンターチーム研修や研究授業、授業後の協議会の場において、最新の専門知識や指導技術を共有し、互いの授業力向上をはかっている。
	問25	本校は外部講師による研修や他校の公開研究会など、校内外での研修に積極的に参加し、授業改善を進めている。

	そう思う	どちらかという 思う	どちらか というと思 わない	そう思わ ない	わからない					
問23	12	26%	31	67%	3	7%	0	0%	0	0%
問24	6	13%	34	74%	6	13%	0	0%	0	0%
問25	14	30%	31	67%	1	2%	0	0%	0	0%



○担当教職員による考察

<保護者>

人材育成・組織運営に関する項目では、多くの設問で「そう思う・どちらかというと思う」が約 7~8 割を占め、教職員の連携や研修、授業改善への取り組みが一定程度評価されていることがわかる。一方で、研修参加状況や校外連携などでは「わからない」も一定数存在する。取組の「見える化」を進めることで、学校全体の組織的な動きへの理解と信頼をより高めていくことが求められる。

<教職員>

教職員の専門性向上に向けた研修体制は概ね高く評価されており、メンターチーム研修や研究授業、外部講師による研修への参加など、校内外での学び合いが定着していることがうかがえる。一方で、「そう思う」割合が他項目に比べてやや低い設問もあり、研修内容の個別最適化や成果の共有方法など、さらなる質向上の余地も示唆される。総じて、組織的に学ぶ文化が形成されつつある点は強みである。

○校長より(来年度に向けて)

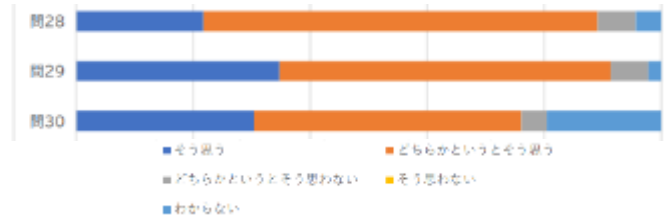
教職員同士が対話を通して学び合う文化は本校の力です。来年度は研修テーマを学校課題と直結させ、即実践・即共有を徹底します。他校の研究授業・学校視察、研修会への参加の資料や得られた知見はロイロノート等で共有し、一人ひとりが日常の授業に活用できるようにします。メンターチームでは、相互に評価・振り返りを行い、学び合いを個々の成長につなげていきます。教職員一人ひとりの専門性の向上が生徒の学びに確実に届く仕組みを磨き続けます。

【個に応じた指導】

教職員

専個 に 応 じ た 指 導	問28	本校は個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成にあたり、一人ひとりの教育的ニーズに応じた目標、指導内容、指導方法等を設定し、本人・保護者と対話を通じて合意形成をはかり、一貫した支援を行っている。
	問29	本校は生徒一人ひとりの実態や状況、ニーズに応じて、個別支援(指導)、登校支援等を行い、3年間学び続けられるよう「支える支援」を進めている。

	そう思う	どちらかという う思う	どちらかという う思わない	そう思わない	わからない
問28	10 22%	31 67%	3 7%	0 0%	2 4%
問29	16 35%	26 57%	3 7%	0 0%	1 2%



保護者

指 導 に 応 じ た	問20	学校は「個別の教育支援計画・指導計画」を、子どもと保護者との対話を大切にしながら作成し、一貫した支援を行っていると感じますか。
	問21	子どもの実態や状況に応じて、個別支援や登校支援などを行い、「3年間学び続けられるよう支える支援」を進めていると感じますか。

	そう思う	どちらかという う思う	どちらかという う思わない	そう思わない	わからない
問20	48 66%	20 27%	2 3%	1 1%	2 3%
問21	46 63%	21 29%	2 3%	1 1%	3 4%



○担当教職員による考察

保護者は比較的肯定的に受け止めてくれているものの、「どちらかというう思わない」と回答した職員が7%いる。なにを理由に「どちらかというう思わない」と回答したのか、分析が必要。一人ひとりのニーズに応じた支援ができていないことが課題なのか、それとも保護者・本人との対話を通じて合意形成をはかれないことに課題があるのか。個別の教育支援計画や個別の指導計画が有効に活用される教育活動を展開していけるよう検討を進める必要がある。

○校長より(来年度に向けて)

個別の教育支援計画・個別の指導計画の有効性を向上させるため、本人や保護者の方との対話を通じた合意形成を丁寧に進めます。来年度から学校設定教科「クローバータイム」を中心に取り組んでいく目標設定や振り返りをできる限り、個別の諸計画とリンクできるよう検討してきます。それらの取組により、生徒が安心して様々なことに挑戦できる場を保証します。評価は実践のプロセスも重視し、成長を可視化することで、次の一歩(目標設定)を明確にします。

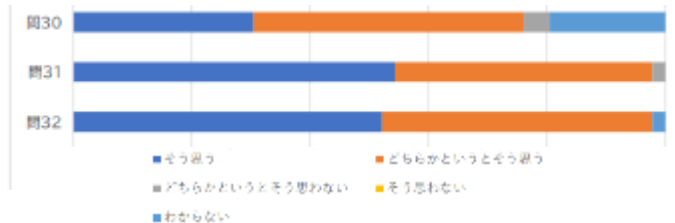
個別の諸計画に基づいた個別最適な学びを「学校の当たり前」にすることで、支援の連続性と一貫性を確保します。

【地域学校協働活動】

教職員

協 働 地 域 学 校	問30	学校運営協議会では本校の教育活動や取組を発信する機会とし、更なる地域協働活動の充実をはかっている。
	問31	本校はせやまる(シャローム三育保育園、にこてらす)、こまち、二つ橋小学校、区役所等々、職業コースやチャレンジワークでの活動や実習とのつながりを広げている。
	問32	本校は新たな連携先や企業等の開拓を行い、持続可能な連携を進めている。

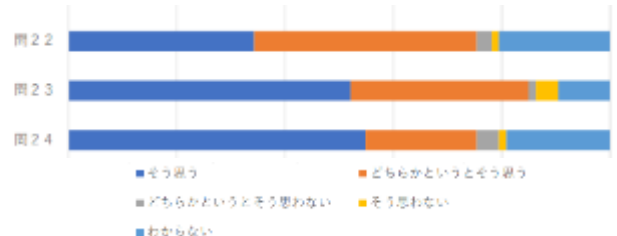
	そう思う	どちらかという 思う	どちらかという と思わない	そう思わない	わからない					
問30	14	30%	21	46%	2	4%	0	0%	9	20%
問31	25	54%	20	43%	1	2%	0	0%	0	0%
問32	24	52%	21	46%	0	0%	0	0%	1	2%



保護者

協 働 地 域 学 校	問22	学校運営協議会は、教育活動や取組の情報発信の場となり、地域との協働を広げることに役立っていると感じますか。
	問23	せやまる(シャローム三育保育園・にこてらす)・こまち・二つ橋小学校・区役所等とつながり、職業コースやチャレンジワークの活動・実習が広がっていると感じますか。
	問24	新たな連携先や企業などの開拓を行い、持続可能な連携が進んでいると感じますか。

	そう思う	どちらかという 思う	どちらかという と思わない	そう思わない	わからない					
問22	25	34%	30	41%	2	3%	1	1%	15	21%
問23	38	52%	24	33%	1	1%	3	4%	7	10%
問24	40	55%	15	21%	3	4%	1	1%	14	19%



○担当教職員による考察

学校運営協議会の取組が地域との協働につながっているか、職業コースやチャレンジワークの活動・実習が広がっているか等、「わからない」の回答が非常に高いことが懸念される。特に教職員でさえ学校運営協議会の理解が浸透していないことは大きな課題である。運営協議会後にはニュースレターを発行するなど啓発に取り組んできたが、それだけでは不十分であることがわかった。次年度は主幹教諭のみならず、多くの職員に運営協議会に参加していただく。学校運営協議会委員みなさまからの貴重なご意見・ご助言を聞かせていただくことで、すべての教職員が自分ごととして開かれた学校、地域とともに歩む学校をめざし学校改善をさらに進めていく。

○校長より(来年度に向けて)

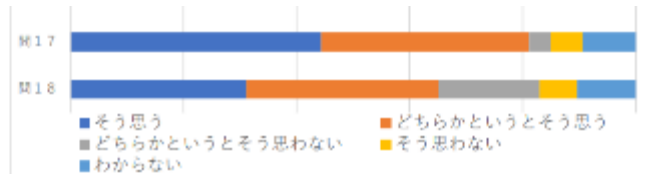
学校運営協議会の理解と参画を進めるため運営協議会に参加する教職員を増やし、委員の皆様方からの助言を授業・行事の改善へ迅速に接続します。運営協議会の議論の要点と実行結果はニュースレターだけではなく、インスタやnoteなどのSNSも効果的に活用し、透明性を高めていきます。地域資源を学びに組み込み、協働の成功体験を増やすことを目的に、4つの職業コースが協力してイベントを開催するなど、地域協働の質を向上し、一人ひとりの生徒の成長へとつなげていきます。

【さいごに】

生徒

さいごに	問17	先生は、あなたや保護者の気持ちや願いを大切にしていると思いますか？
	問18	学校は、あなたが安全で安心して生活できるように、よい環境をつくっていると思いますか？

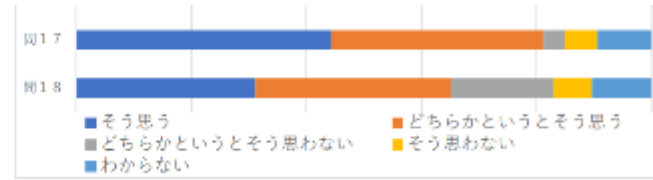
	そう思う	どちらかというそ う思う	どちらかというそ う思わない	そう思わない	わからない					
問17	47	44%	39	37%	4	4%	6	6%	10	9%
問18	33	31%	36	34%	19	18%	7	7%	11	10%



保護者

さいごに	問17	先生は、あなたや保護者の気持ちや願いを大切にしていると思いますか？
	問18	学校は、あなたが安全で安心して生活できるように、よい環境をつくっていると思いますか？

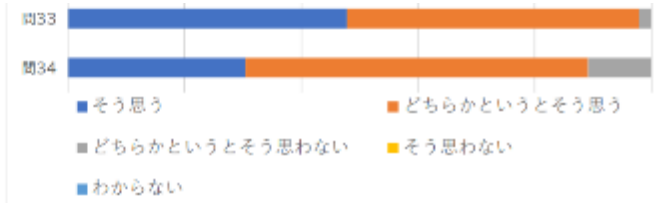
	そう思う	どちらかというそ う思う	どちらかというそ う思わない	そう思わない	わからない					
問17	47	44%	39	37%	4	4%	6	6%	10	9%
問18	33	31%	36	34%	19	18%	7	7%	11	10%



教職員

一人ひとりを大切に	問33	本校は、生徒・保護者の思いや願いを大切にしている。
	問34	本校は生徒が安全に安心して学校生活を送ることができる教育環境が整えられている。

	そう思う	どちらかというそ う思う	どちらかというそ う思わない	そう思わない	わからない					
問33	22	48%	23	50%	0	2%	0	0%	1	0%
問34	14	30%	27	59%	5	11%	0	0%	0	0%



○担当教職員による考察

生徒の回答から、学校生活における「安心感」への不安が一定数見られた。心理的安全性の不足や、教職員・友人関係、学びの環境など、安心して本音を語れる関係性づくりが課題である。また暴言・器物損壊などの事案もあり、全ての生徒が心穏やかに過ごせる環境整備が求められる。寄り添い、促す指導、自分で決める力を大切にする支援を継続し、ありのままの自分を受け入れられる学校づくりが必要である。同時に、感情コントロールが難しい生徒への支援は喫緊の課題である。保護者からも「思いを大切にしているか」「安心できる環境か」への否定的回答が6~7%あり、学校として真摯に改善を図る必要がある。教員からも同様の課題意識が示されており、生徒一人ひとりの安心感を高めるため、対話を重視した支援の充実が求められる。

○校長より(来年度に向けて)

学校の最優先は、誰一人取り残すことのない、すべての生徒の安心・安全の保障です。そのために教職員と生徒、生徒同士が対話を積み重ねより良い人間関係を構築します。より良い人間関係の基盤となる学校全体の心理的安全性を高めるため、年度当初に職員研修を実施します。感情のコントロールが難しい生徒への支援を組織的に強化し、予防—早期対応—再発防止を徹底します。全ての教職員が感度を上げ、小さなサインを見逃さない観察と共有の仕組みづくりをします。また、保護者の方と迅速に課題認識を共有し、協働して生徒支援の充実を図ります。

<生徒自由意見>

【いじめの対応について】

- いじめられている人を逃すのは違うと思います。
- 自分から報告をする
- いじめしないで止め方は違うのですか？
- 廊下の見回り循環は徹底をした方が良くと思います。お忙しと思いますが時間指定などをしてでも必要かと思ひます。
- 変に口出ししないでほしい
- 監視カメラとか色々設置すれば良いと思ひます。「証拠になるから」
- もう少し生徒の気持ちを尊重すべきだと思ひます。教師も生徒も忙しいことが理由で相談する時間を作れていないのが現状だと思ひます仮にいじめがあつたとしても教師が気づくことはできないんじゃないでしょうか
- 被害者からの報告を(先生経由ではなく)気軽に尚且つ秘匿性の高い連絡先システムが欲しいです。
- 混沌としているので先生も対応が難しいと思ひます
- 笑って誤魔化さないで真剣に話を聞いてあげてください。
- だんだん増えているなと思ひます
- その人が何故それをしてしまったのか、どう言う経緯でその状況になつたかを調べるのが良いなと思ひました。
- もっといじめられている側に寄り添つて話を聞いて欲しいと思ひました。自分が変わらなきゃいけないの分かりますがそれが難しいから相談しているのだから寄り添つて欲しいです。
- 自分が嫌だと思つたら、逃げるか正直な気持ちを言う

【自由意見】

- 学校で習っている職業の在り方は本当に今の時代に合っているのかと思ひました。時代に合わせて変化しているのか？古いままでは意味がないのでは？
- きびしいです
- クラスの時間を多くほしい。保護者と話して決めたことに口を出さない。
- 5分休憩を10分に戻してほしい(意見は次の授業でいろんな人がもたもたしているから)。
- なるべく2年生のクラスで1人か2人は別れず同じクラスにいてほしいと個人的には思ひます。
- 更衣室がうるさい 話している内容がよろしくない
- 部活をもっと増やしてほしいです。研究部でもいいです。
- 少し不自由だと思ひます。
- ほうしん、時間割の変更が自分の入学から今まで多かつたこと。
- スマホをつかえるようにしてほしい 体育館つかいたい
- 文化祭をつくってほしいです
- 学校変えろ
- 文化祭で屋台がやりたい!
- 働くことを目標にしている学校ということはわかっているが、最低限中学校1から3年の勉強を取り入れてほしい
- 現在の生徒についてどう思われていますか？
- 教育課程が変わりすぎ
- 2つあります。1つは、授業日程や内容が事前に決まっていたのに時折生徒にうまく伝わっていなかったりしました。急遽生徒に言われても困ることがあるので事前に再度丁寧に教えていただけますと助かります。
- スマホの使用自由にできるように仕向けて欲しいです。
- 行事少ない
- 製造加工の仕事を仕事を少し緩くしてください。

- あくまで願望ですが教師が生徒に対して誰に対しても平等な対応をしてくれることを願っています
- 委員会の仕事の量に偏りがあると思います。委員会の機会を増やしていただきたいです。教科の持ち物を今までみたいに教科係が職員室に聞きに行く今までのシステムで良いと思います。
- ペットボトルキャップの回収にあやかってベルマークの回収を始めたらどうでしょうか？
- 授業の緊急変更が、多くて困ってます。できれば、当日に変更はあまりして欲しくないです。できたらで良いので。絶対とは言ってません。変更は仕方ない事なので。
- 学習レベルが各自で違うところ、休憩時間が少ないところ、他校との関わりが少ないという部分、製造加工の負担の大きさ、地域の方々からの謎の集中砲火、職業コースの選択時第一希望にならないところ以上が不満です
- 今の二年生がしっかり後輩たちを引っ張っていけるかいけるか心配です。。
- 職業の授業で課題を克服できるところが良い
- 個人的には恨まれているかもしれない不安について対応がそんなにない気がしました？私のせいかもしれませんがそれなりのトラブルがあった割には対応もせず互いに登校しなくてはならなかった
- 二階に時計や自動販売機をつけて欲しい。
- 信頼できる先生がいて相談に乗ってくれるので安心して学校に通うことが出来ました。今までありがとうございました。教育課程が変わって福ずつなこともあります去年より良い学校に近づいてきていると感じます。
- 信頼できる先生がいて相談に乗ってくれるので安心して学校に通うことが出来ました。今までありがとうございました。教育課程が変わって福ずつなこともあります去年より良い学校に近づいてきていると感じます。
- 職業が一押し後輩とのコミュニケーションがとれるようになったことは良かったのではないかと思います。ただしまだ改善しなくてはいけない部分があると思います。
- 学年によってルールが違うのがズルいと思うところもある
- 授業で自分で考えて行動することが多い気がします。分からなかったら教えてくれたり近くにいて聞きやすい環境だったら助かります。
- 部活の時間を増やして欲しいです。
- 行事をもっと増やしてほしい
- セーターやカーディガンなどブレザーなしで着させてください
- ブレザーとパーカーについて

<保護者自由意見>

【いじめへの対応】

- 不審に思った事はすぐに対応して下さり安心できました
- 見つけてあげて下さい。

【自由意見】

- 学校生活実習を通して卒業後の暮らしについて本人なりに考えるようになりました。その目標に向かって努力することもできるようになってきました。二つ橋に入って良かったと本人も言っています。ありがとうございます
- 息子とやりました。学校の質。一人一人に寄り添う姿勢が感じられない。何を支援してくれてるのか、やり過ごしてる感じがする
- いつも子供のためにご尽力してくださり、本当にありがとうございます。
- いつもお世話になっております。ありがとうございます。
- 実習先の選択肢があって、選べる形があって欲しかった。
- 二つ橋は生徒、保護者からの意見を聞き、柔軟に迅速に対応してくれていると思います。改革をするのは時間も労力も掛かるものだと思っていましたが、より良い学校にしようという先生方の気持ちが素晴らしいと思います
- いつも母子共にお世話になっております。子どもの変化にいち早く気付きお電話をいただける環境は、安心して子どもを任せられると信頼しております。
- 学習発表会の代わりに文化祭をやってほしいです
- スポーツデイが、変わって面白くなった。お昼のパン販売を週四日にして欲しい。惣菜パンを中心にして欲しい。
- いつもありがとうございます
- 合同授業は集中力が続かないようでイライラしてしまい感情のコントロールが難しく困っているようです。どうすれば落ち着いて参加出来るのかアドバイスがあればしていただきたいです。
- わからないと回答している箇所は否定的な意見ではなく、私が質問の内容を理解できなかったのもわからないと回答しております。
- 大きく成長した三年間でした。
- 子供の事を丁寧に真剣に向き合ってみて下さり本当にありがとうございます。

<職員自由意見>

【評価できるところ】

- 生徒と対話を重ね、生徒の思いを引き出しているところ。本人の自己理解、自己受容につながると思うから。
- 縦割りの授業をすることで他学年の生徒と関りが増え、生徒のニーズや実態を話し合いの中で知れて、その後の支援に役に立ちました。
- 常にアップデートしようとする姿勢を教職員が持ち続けているところ。
- 新しい取組みに対して積極的に協力するような雰囲気ができつつあります。
- 冰山モデルや、四つの問いの研修等を通して、全ての学校生活の中で、生徒と向き合う姿勢、対話の在り方等について意識が深まっているところ。
- 絶えず学校改善をすすめているところ。現状にとどまらず、よりよい学校へ前進していこうとするエネルギーを感じる学校。
- 生徒主体の学びの機会
- 生徒一人一人が自分の思いを発信できるようになったり、物事に対して考えて行動したりするようになったところ。支え合う支援を一貫して取り組んできたからではないかと思う。
- 教職員が生徒の気持ちや将来を第一に考えて、全員で支援方法を検討できる環境が整っていると感じています。何かあった時にそれぞれの先生方の視点からご意見をいただくことができ、支援方法を検討できるからです。
- 生徒一人一人に対して、親身になってくださる職員がいるので、安心の出来る学校に思います。
- 常により良い教育を目指して日々アップデートしようとしている。